



新村の人口	・世帯数
令和5年7月1日現在	
世帯数	1,320戸
男女	1,512人
合計	1,601人
	3,113人

感動の芝沢小学校 運動会

5月27日、第50回の運動会が開催されました。新型コロナウイルス感染症による観戦人数の制限が無い運動会として3年ぶりの開催でした。



決戦を前に...

天候にも恵まれ、マスク

を外した児童の顔が見ることができました。10分間の開会式では、エール交換や運動会の歌が大きな声で行われていました。

コロナ前は、本部席側に来賓席と敬老席がありましたが、そこは6年生の座席になっていました。準備や進行の係を担っており、先生ともすぐ連絡を取れたり、応援する場所も広くなりました。また、4年生が「ものぐさ音頭」を踊ってくれたことも印象に残りました。



全力で駆け抜ける!!

地域探検で新村を学ぶ



紙芝居に興味津々



熱心に耳を傾ける

5月2日、新村公民館に芝小3学年2クラス、60名の児童が訪れました。

新村地区の成り立ちや、地域づくりセンター・公民館・福祉ひろばの役割などの説明に耳を傾けて熱心にメモを取っていました。

最後に恒例となっている「ものぐさ太郎」の紙芝居を楽しんで学校に帰って行きました。新村のことを知り郷土を愛する人にと願います。

寺子屋おりんぴつく

地域づくり考房「ゆめ」新村公民館共催の寺子屋が6月25日に参加者10名(学生6名、小学生2名、保育園児2名)で開催されました。今回のテーマは「オリピック」で、風船バレーや卓球などの室内でもできる運動を子供たちと一緒に楽しみました。保育園児を含めての開催は今回が初めてでしたが、学生が様々な遊びや種目を用意していたことで、誰でも楽しむことができたことになりました。特に風船バレーは学生

も夢中で取り組むことができ、汗をかきほり盛りました。また今回の企画では、景品として手作りの「お菓子リュック」を用意しましたが、子ども達には可愛らしい見た目と好評でした。様々な企画や準備をしたことで、みんなが笑顔になれる時間となりました。



テーブルピンポンを楽しむ

八束穂

テレビの俳句番組が好評だ。楽しく視聴されているようだ。公民館での「くれき句会」も5月で250回を迎えた▼「梅一輪一輪ほどの暖かさ」嵐雪・「散る桜残る桜も散る桜」良寛・「分け入っても分け入っても青い山」山頭火。私の好きな句であるが、難しい言葉を使ってもなくても、季節の移り変わりやもののあわれ、心情、情景が誰にでもわかり、私もこんな俳句が詠めたらと思う▼最近の俳句は、写真俳句や、新しい言葉を使用するようになり、芭蕉や一茶は古くなってしま、蓑・仕事歌・わらじ・蚤虱・牛馬...身の周りから失われた物ばかりである▼農業も機械化になりエンジンの音が季節を知らせ、都会ではビル街から見え隠れする月、流れ行く車のテールランプ、デジタルの詠み手も只雪月花を詠んでは取り残されてしま、そうだ。「詠み手」も「読み手」にも現代俳句は力がないと楽しまない。子規以来、俳句も時代と共に変わってきたが、身の周りの様々な気付きを心で感じて俳句を楽しみたいものだ。

ものぐさ大学

大人の社会見学

5月23日、28名で伊那方面への学習会です。

養命酒駒ヶ根工場を見学しましたが、生産ラインのトラブルで可動しておらず残念でしたが、工場環境の良さを堪能しました。

豪華な昼食後は、



製造の過程を学ぶ

再びバスに乗り「ピンピニコロリ地蔵」発祥の瑠璃寺を訪ねました。境内には素晴らしい枝振りの松があり、良い佇まいでした。

再びバスに乗り「ピンピニコロリ地蔵」発祥の瑠璃寺を訪ねました。境内には素晴らしい枝振りの松があり、良い佇まいでした。

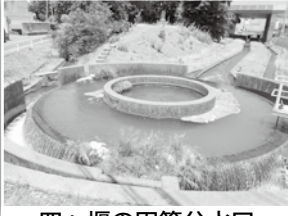
まつもと文化遺産巡り

まつもと文化遺産に認定の、「四ヶ堰と芳川地区の生活を支えた用水路」を学ぶため、電車を乗り継ぎ、12名で芳川地区を訪れました。

6月19日(月)梅雨の晴れ間の暑い日でした。芳川の粕澤公民館長の案内で、塩尻北インター近くに築かれた円筒分水施設まで、途中にある文化財の説明を受けながら、歩みを進めました。また、同行



小屋太子堂にて



四ヶ堰の円筒分水口

の困難を乗り越え、「四ヶ堰用水」が整備されたとのこと。この「四ヶ堰」4つの川がよし川、転じて芳川という名前のもとになったそうです。

NHK大河ドラマにもなった「井伊家」縁の松岡城跡、松源寺の見学です。住職不在とのことでお話は聴けませんでした。眼下に広がる伊那盆地を見渡すことができました。

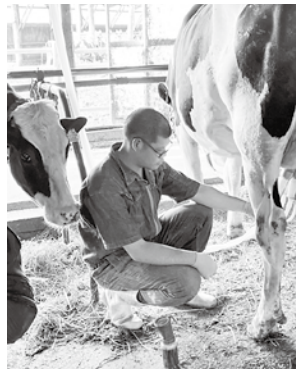
の長岡壽さんからは、以前に赴任した、芳川小学校にまつわる話を聞きました。こども達全員が正門から登下校する姿や、鉄道線路を挟み、学校位置を争った等々のお話でした。

芳川地区は、奈良井川と田川に挟まれていながら、地下水に乏しく、昔は近隣の村落との水争いが絶えなかったそうです。農業用水の安定供給が課題でした。村井町、小屋村、野溝村、平田村に潤沢に用水が分配されるよう、幾多

シリーズ

新村地区の輝く人 ⑥

今回このシリーズに登場していただく方は、南新東町会にお住まいで、「手塚牧場」でお仕事をされている手塚将太さん(32歳)です。どんなお話が伺えるか楽しみです。



搾乳の様子を見る

●酪農を始めたきっかけを教えてください。

◆本格的に考え始めたのは、親元を離れ北海道の高校に進んでからでしょうか。同年代の酪農家後継者たちと共にたくさん経験の積み重ねました。彼らとの出会いが大きな刺激となりました。そこが一番ですね。

●一日の仕事の流れや内容について教えてください。

◆朝は四時起床です。エサやりに掃除、搾乳を行います。

だいたい七時から九時頃には終了します。畑のある時季は朝の仕事の後、夕方まで作業を行います。夕方からもう一度朝と同じ工程を行います。

●仕事をしていて思うことはありますか？

◆基本的には休日が無いので、その点は大変だと思えます。でも牛は頑張つて手を出した分だけ多くの乳を出して恩返ししてくれるので、やりがいにもなっています。また家族がいることも自分にとって大きな力となっています。

●将来の展望や思いなどを聞かせてください。

◆周りに住宅も多いので難しいかもしれませんが、今の倍くらい飼育頭数を増やして規模を拡大できればと思っています。現在、全国的に酪農の情勢は厳しいものになっています。皆さんに「一日コップ一杯」でも牛乳を飲んでもらえると嬉しいですね。

●将太さんの元気の源はやはり牛乳ですか？

◆そうですね。牛乳パワーで病気知らずです。皆さんも健康のために是非牛乳を飲んでください。

益々のご活躍を期待しています。ありがとうございます。

ニユースポーツ 交流会開催!!

5月28日に市スポーツ推進委員協議会第3ブロック主催のニユースポーツ交流会が芝沢体育館で開催されました。子ども達を中心に、玉当てやモルックなどを楽しみました。



玉当てを楽しむ子ども達

オーブン大会開催!!

7月2日にオーブン大会(ワンパウンドふらばーるバレー)が開催され、小学生から70代までの10チーム、約80名の参加者が楽しみながら汗を流しました。成績は次のとおりです。



白熱した試合が繰り広げられる

- 優勝 南東B
- 準優勝 打ち上げは百味軒
- 3位 愉快な仲間たち